

Audacy社 オーダシー・サンディエゴ (インターネットラジオ) Audacy

導入製品

■高性能ステレオIPオーディオ・
コーデック
Bridge-IT XTRAI
Gateway
Merlin PLUS
ViA



TielineによるMLBライブ中継

Tieline[®]
The Codec Company

■ Tieline社

1981年に設立されたTieline社は、オーストラリアと北米にオフィスを構え、南北アメリカ、ヨーロッパ、イギリス、アフリカ、アジア、中東、オーストラリア、マレーシアにまたがるグローバルな販売ネットワークを展開しています。

■ 事業内容

コーデック技術の開発に42年以上携わり、さまざまな用途や価格帯に対応する幅広いコーデック製品を開発・設計・販売しています。

<https://tieline.com>

インターネットラジオのオーダシーのサンディエゴ局群は5つのFM局で構成され、うち4局が音楽局、1局がスポーツ局です。

オーダシー・サンディエゴでは様々なメーカーのIPコーデックを扱った経験があり、それぞれに長所と短所があります。数年前、Tieline社製コーデックの採用を決定し、現在では約24台のTielineコーデックを所有しています。このうち6台のViAが市場の5局を支える主力機であり、さらに3台のMerlin Plusユニットを運用しています。また、スタジオ間接続やスポーツ関連フィード用にTieline GateWayを導入しているほか、第一世代のBridge-ITおよびBridge-IT XTRAコーデックも複数台保有しています。

設置

2025年MLBシーズン開幕前に、サンディエゴ・パドレスの本拠地であるKWFN「97.3 the Fan」で試合中継を行うため、ペトコ・パークの放送ブースラックに新型Tieline Bridge-IT XTRA IIコーデックを設置しました。

メイン信号はサンディエゴ全域をカバーし、4基のブースターと提携局を通じてカリフォルニア州テメキュラ、パームスプリングス、ネバダ州ラスベガスまで放送範囲を拡大しています。

これは半恒久的な設置であり、新しい

Bridge-IT XTRA IIはアップグレード時期を迎えていた旧式コーデックに取って代わります。ペトコ・パークからダイヤルし、Tieline Music Plusエンコーディングを用いてスタジオ設置のGateway 8へステレオ番組音声を送出します。このGatewayはモノラル信号を系列局へ配信し、アウェイゲーム時にはViAコーデックへ接続します。稀に遠隔地でのインターネット接続不良に対応するため、Opusを利用する場合もあります。

冗長性は当局にとって非常に重要であるため、SmartStream Plusを採用しています。Bridge-ITは両方のNICを独立して使用するようにプログラムされています。スタジオのゲートウェイも2つの独立したISPを有し、一方のNICは内部用であるためNAT変換が使用され、もう一方はDMZ上に設定されています。いずれか1つが失われても、放送全体が途絶えることはありません。

ステレオリターンの片チャンネルにはモノラル番組とIFB通信を送信し、もう片方のチャンネルは制作された実況中継フィードで、ペトコ・パークのコントロールルームにルーティングされます。これによりスタジアムの共用エリアに配信されます。

スタジオのインターネットデータは他メディアと共有されているため、当社ではこれを依存しません。代わりに、冗長化のためブース内で2つのISP(AT&TとComcast)を光ファイバー経由で利用しています。

さらに、T-Mobileをバックアップとして使用する内蔵NIC搭載のセルラーホットスポットも備えています。

ホームゲームでは、これを「ロード」ViAをスタンバイとして併用します。

リモート制御とアクセシビリティ

遠隔コーデック管理にはTielineのCloud Codec Controllerを採用しており、これにより迅速な変更対応やトラブルシューティングが可能となります。

これはプロデューサーやエンジニアにとって非常に心強い機能であり、特に出演者と同じ場所にいない場合にその価値が発揮されます。

もう一つの利点はユーザーアクセシビリティです。特にコンピュータやリモートアクセスがない場合、Bridge-IT XTRA IIのフロントパネルでメニューにアクセスできる点が気に入っています。

Web-GUIアクセスは皆好みますが、時にはボタンがあることが窮地を救うこともあります。



スタジオ設定

私の哲学は、柔軟性と信頼性が極めて重要であるということです。スタジオ内のすべてのコーデック(Gateway 16を除く)は、AESデジタルオーディオ経由でSASシステムに接続されています。

Danteモジュールを使用したGatewayをテストしたところ良好に動作し、将来的に導入される可能性があります。

要約

Bridge-IT XTRA IIの主な利点として、使いやすさ、設置の簡便さ、リモートアクセスが挙げられます。

さらに、SmartStream PLUSとの併用を想定した2つのネットワークインターフェース(NIC)を搭載し、冗長性と稼働時間の確保が重要なポイントです。

将来的にはAES67ネットワークを統合し、ブース内の柔軟性をさらに高める可能性があります。Bridge-IT XTRA IIはデュアルAoIPポートも備えているため、このアップグレードは容易に完了できます。

「担当者の声」



Bridge-IT XTRA IIの主な利点として、使いやすさ、設置の簡便さ、リモートアクセスが挙げられます。さらに、SmartStream PLUSとの連携用に2つのネットワークインターフェース(NIC)を備え、冗長性と稼働時間を確保している点も重要です。

ビル・アイゼンハマー

オーディシー・サンディエゴ/チーフエンジニア

